

家族心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード	FC2515	担当教員	平泉 拓
-------	--------	------	------

■科目の内容

家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。

家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について扱っていきます。

■到達目標

- 1) システムとしての家族を説明することができる
- 2) 家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる
- 3) 家族を対象とする心理臨床と、個人を対象とする心理臨床の違いについて説明することができる

■教科書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣、2008年

(最近の教科書変更時期) 2016年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	家族システム理論 (第1章)	家族という事象をとらえるための基盤である、家族システム理論について理解する。 キーワード：社会構成主義、家族システム理論、階層性、円環的因果律、第一次変化と第二次変化	身の回りの家族を例にして、家族をシステムとしてみてください。家族をシステムとしてとらえることができると、2回目以降の学習内容がより深く理解できます。
2	家族を理解するための鍵概念 (第2章)	家族という事象をとらえるための3つの鍵概念—構造、機能、発達について理解する。 キーワード：構造、機能、発達、ジェノグラム、エコマップ	身の回りの家族を例にして、ジェノグラムとエコマップを描き、学習内容を整理してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	独身の若い成人期 (第3章)	若い成人期の発達課題と危機について理解する。また、将来の家族形成に向けた予防的アプローチについて理解する。 キーワード：親密性、親密さへの恐怖、自己分化、情緒的遮断、親役割代行、配偶者選択、アサーション	家族という事象は、結婚する前の若い成人期、あるいはそれ以前からすでに始まっていると考えられます。三回目は、若い成人期のどのような側面が後の家族生活に影響するか、といった点について理解してください。
4	結婚による家族の 成立期 (第4章)	新しい家族生活のスタートとなる新婚期の家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：家族システムの結合、非合理的思い込み、カップルダンス	夫婦は家族の最も基本的かつ中心的なサブシステムです。夫婦が新婚期にどのような課題に直面するか予測できると、夫婦で課題と危機に対処することができます。4回目は、新婚期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
5	乳幼児を育てる段階 (第5章)	妊娠・出産・子育てによって生じる家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：伝統的性別役割観、仕事と家庭のバランス、拡大家族、親の機能、父親の育児参加	乳幼児を育てるなかで、夫婦関係は変化し、夫婦の役割は変更されます。夫婦が子育てに取組み、父親が子育てに積極的に関わることができるようになることが大切です。5回目は、育児期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
6	小学生の子どもとその家族 (第6章)	小学生の子どもとその家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：エアポケット、発達の加速現象、三角関係、養育システムの再編成、成員の個性化、ギャング・エイジ	思春期の子どもは、発達・成長が著しく、学校など家族以外の場面のなかで精神的に成長します。6回目は、学童期の子どもがいる家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
7	若者世代とその家族 (第7章)	青年が親離れする過程、親が青年を手放していく過程で生じる、家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：移行期、チャムシップ、ピア関係、自我同一性、	思春期・青年期に入った子どもは自立の準備を進めていきます。7回目は、中年期の家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
8	老年期の家族 (第8章)	高齢期の家族が抱える発達課題と危機について理解する。 キーワード：人生の統合、多世代の関係性の再構築	高齢者やその家族は、ケアが必要な「受け身の存在」になりやすいです。このような中で、高齢者と家族がより自律的に生き生きと暮らすためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	家族への臨床的アプローチ (第9章)	家族療法の発展史、代表的な理論モデル、他のアプローチとの違い、代表的な技法について理解する。 キーワード：多世代家族療法、構造的家族療法、MRI家族療法、ミラノ派家族療法、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ジョイニング、多方向への肩入れ、リフレーミング	4回目から8回目までの裏テーマになっていたのは「家族内のルールの変更」でした。家族療法の理論モデルはいずれも、家族内のルールの変更を支持し、家族が自律的に問題を解決することを援助するものです。9回目は、個人を対象とする心理臨床と、家族を対象とする心理臨床の違いは何か、という観点から家族療法について理解してください。また、コラム⑨「家族療法の魅力」を読み、家族療法の特徴について理解を深めてください。
10	夫婦関係の危機と援助 (第10章)	夫婦関係の危機とカップル・セラピーについて理解する。 キーワード：カップル・セラピー、離婚のプロセスと発達課題、再婚家庭のプロセス、ステップファミリー	現代の家族のあり方は多様であり、離婚や再婚など人々が選択する家族の形はさまざまです。10回目は、離婚と再婚のプロセスについて特に整理してください。そのうえで、カップル・セラピーの留意点について、カップルとセラピストそれぞれの観点から理解してください。
11	子育てをめぐる問題と援助 (第11章)	社会の守りの中での子育ての必要性について理解する。 キーワード：障害者・児、児童虐待、育児不安、親支援、親業トレーニング、家族再統合プログラム	いつの時代でも、地域や親族の支えがないと家族は子育てをすることができません。孤立した環境のなかで「育てにくい子ども」を育てている親だけでなく、多くの親は育児への不安とストレスを抱えながら子育てをしています。11回目は、親支援や子育て支援のプログラムを知り、その必要性について理解してください。
12	家族が経験するストレスと援助 (第12章)	災害、病気、子育てなど、家族が経験するストレスと援助について理解する。 キーワード：あいまいな喪失、グリーフ(悲嘆)、段階理論、ウェルビーイング、医療的家族療法、レジリアンス、多世代家族療法、ナラティブ・アプローチ	問題を抱えない家族は存在しません。12回目は、自然災害、家族メンバーの喪失、一過性・慢性的の病気への罹患、事件や事故への遭遇などを取り上げます。そして、どのような行動が家族メンバーの助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
13	家族の中のコミュニケーション (第13章)	家族療法のコミュニケーション学派の理論について理解する。また、DVと暴力のサイクルについて理解する。 キーワード：コミュニケーションの公理、ダブルバインド仮説、コミュニケーションの悪循環、解決志向アプローチ、家族神話、DV、暴力のサイクル、アサーション	セラピストのツールは、単純化すると言葉のみです。「言葉はもともと魔法である」といわれるように、セラピストは「言葉」により「変化」を作っていきます。13回目は、このような考えの基盤となる、コミュニケーションの5つの公理を理解してください。また、「解決しようとするのが問題を維持させる」というパラドックス(逆説)についても理解してください。身の回りの家族を例にすると、学習が深まります。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	女性と家族 (第14章)	家庭内外にあるジェンダーの問題を扱い、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について理解する。 キーワード：ジェンダーのレンズ、ジェンダー・センシティブ・サイコセラピー	社会文化に敏感な視点をもった心理療法は、それ自体が単独で成立するものではなく、あらゆる心理療法に浸透するべき要素です。14回目は、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について、もっとも重要な事項はなにかを考察してください。その際、コラム⑭「心理療法に必然的に生じる“力関係”にどう取り組むか」を読み、理解を深めてください。
15	男性と家族 (第15章)	父親と夫をどう理解し援助するかについて理解する。 キーワード：パワーとコントロール、恐れと思い込み・信念	夫・父親をどのように理解し関わるのがより効果的な援助につながるのだろうか。15回目は、父親や夫であることをめぐる葛藤と不安について、理解を深めてください。

■レポート課題

1 単位め	家族のある時期を取り上げて、家族が直面する発達課題と危機、対処法について具体例を示しながら説明しなさい。
2 単位め	コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

システム論的なものの見方は、最初はどうしても身になじまず、理解が容易でないと感じられるかもしれませんが、しかし、ひとたび自分のものにすることができると、家族だけでなく、複数の人が相互に影響を与えながら機能する会社組織や学級、学校システムの理解に適用することができるたいへん便利なものの見方です。

各課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

1 単位め アドバイス

レポートを完成させるためには、次の(1)から(3)について整理することが助けになるでしょう。教科書では「第2章」および「第Ⅱ部」が関連する箇所です。

(1) 家族の発達の側面とはどういうことか

(2) カーターとマクゴールドリックの家族発達課題（家族のライフサイクル）では、家族の誕生から消滅までを6段階で説明しています。このうち、関心のある一時期を取り上げてください。

(3) 家族がある時期の発達課題や危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのでしょうか。たとえば、青年期には「子どもの独立を進め、家族の境界を柔軟にすること」が家族の発達課題になります。この課題を乗り越えるためには、「a. 青年が家族システムを出入りできるように親子関係を変えること」、「b. 親子関係を成人同士の関係に発展させること」などが求められます。それでは、このように家族が変化するには、家族メンバーのどのような行動が役立つでしょうか。この点について、自分自身の経験やそれぞれの家族メンバーの視点にたって具体的に論じてください。

注) 教科書の記述について：「モルフォスタシス（形態維持）」と「第一次変化」、「モルフォジェネシス（形態発生・変化）」と「第二次変化」はそれぞれ同じ内容をさす用語です（参考として、教科書12頁、27-28頁）。

2単位め アドバイス

このレポート課題では、人間のコミュニケーションをとらえるための重要概念について出題しました。解答のポイントは、教科書で紹介されている例を手がかりにしつつ、身の回りの家族生活の例をあげることです。

■科目修了試験 評価基準

試験100%で評価します。試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 岡堂哲雄編『家族心理学入門（補訂版）』培風館、1999年
- 2) 平木典子・中釜洋子著『家族の心理 家族への理解を深めるために（ライブラリ 実践のための心理学3）』サイエンス社、2006年

その他は教科書に参考提示してある文献をみてください。